

「中部地域での包括的民間委託の先行事例（明和町の取組）」

道路包括管理の導入 先行自治体からのエピソードと秘訣

10年後、 私たちの町の道路を守っているのは誰だろうか？

～未来のインフラを守るための新たな公民連携モデルのご提案～

三重県明和町役場 建設課長 西尾直伸

「中部地域での包括的民間委託の先行事例（明和町の取組）」

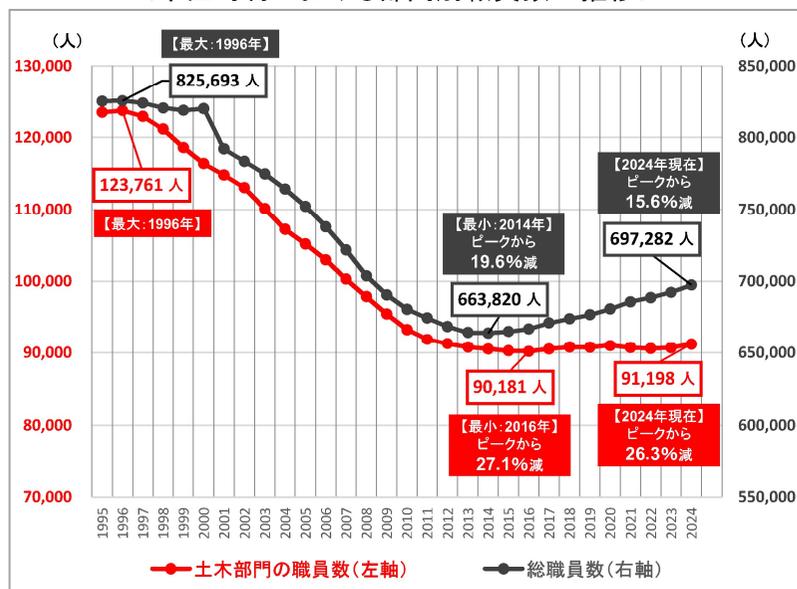


なぜ今、新しい道路管理の手法を考える必要があるのでしょうか？



人口減少や予算の制約により、**将来の道路インフラの担い手がいなくなる**という、**深刻な危機が迫っている**からです。

＜市区町村における部門別職員数の推移＞※1



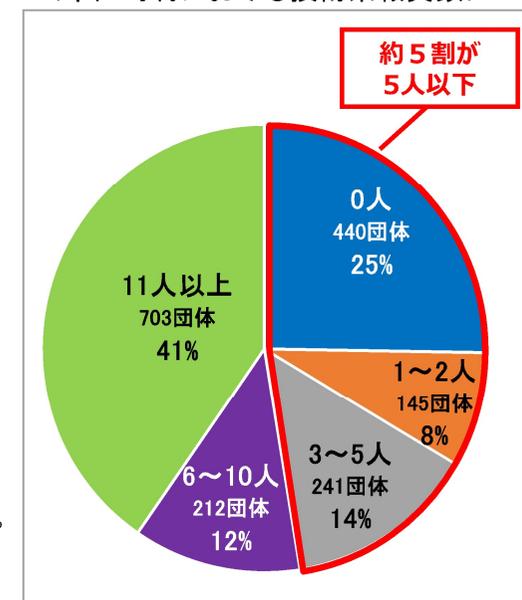
※1: 地方公共団体定員管理調査結果 (R6.4.1時点) より国土交通省作成。

なお、一般行政部門の職員を集計の対象としている。

※2: 技術系職員は土木技師、建築技師として定義。

出典：国土交通省 総合政策局 『国土交通省のインフラメンテナンスに関する取組みについて』 (R7年10月)

＜市区町村における技術系職員数＞※1※2



「中部地域での包括的民間委託の先行事例（明和町の取組）」



検討のきっかけは何だったのでしょうか？



対象地域の概要と連携事業者

データ連携基盤を活用した広域自治体連携による地方創生を目指した活動

単独自治体の行政施策だけでは困難な地域課題を産学官民連携で解決



	総人口	人口増減率
多気町	14,450人	-3.6%
明和町	22,621人	-1.1%
大台町	9,087人	-8.2%
度会町	8,022人	-4.4%
大紀町	8,212人	-9.2%
紀北町	15,217人	-12.2%



外部からの専門的な提案と、トップ（首長）の強いリーダーシップがきっかけです。

地域活性化起業人からの提案や、スーパーシティ推進協議会事業者からの提案。

「中部地域での包括的民間委託の先行事例（明和町の取組）」



導入にあたり、どのような壁がありましたか？



職員・議会・事業者の三者からの抵抗感や、近隣自治体との調整の難しさという大きな壁に直面しました。

発注方法の大きな変化に対する懸念



役割の拡大や業務量の変化に対する戸惑い



地域の慣習や維持管理方法の違いにより調整が困難

委託費用増加に対する抵抗感



予算部署

明和町建設課



「中部地域での包括的民間委託の先行事例（明和町の取組）」



その壁をどうやって乗り越えたのですか？



「変わらなければ進めない、
まずはやってみよう」
と事業者に提案。

将来への共通の危機感を共有し、対話を継続したことです。また、無理なく試せる範囲で始めることで、理解を広げていきました。



三重県明和町役場YouTube
チャンネル参照

道路啓開訓練の様子

「中部地域での包括的民間委託の先行事例（明和町の取組）」



地元事業者との関係性をどう守るのですか？



既存の良い関係性を維持したまま、
仕組みとして強化するものです。むしろ、**地域の慣例などを「見える化」**し、次世代に引き継ぐ良い機会となります。

「この地区は昔から〇〇組」といった親和性の高い仕組みは残しつつ、バックアップ体制を構築する考え方を示します。
これまで文章化されてこなかった知見や経緯を、きちんと引き継ぐことが重要です。

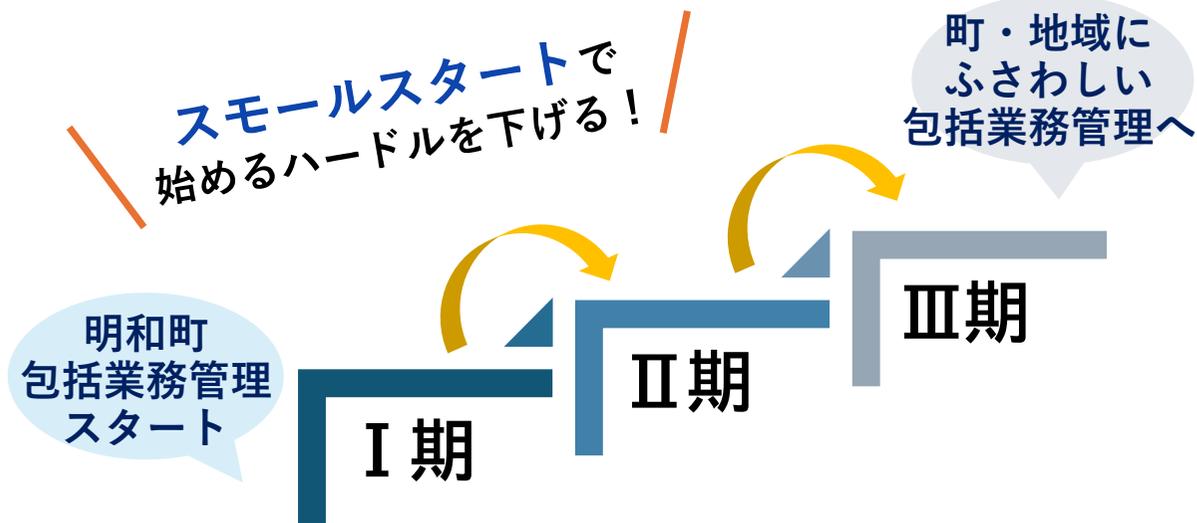
「中部地域での包括的民間委託の先行事例（明和町の取組）」



失敗を恐れず、何から始めれば良いのでしょうか？



本格導入の前に、関係者間で納得しながら進められる「**試行導入**」から始めるのが有効です。



ECI方式などを活用し、仮の管理を試行する方法を提案します。
「ドラフティング状態で細部を決めずに実際に構築して行う」という考え方を具体化し、行政用語では「実証実験（PoC）」や「パイロット事業」と言い換えることができます。

「中部地域での包括的民間委託の先行事例（明和町の取組）」

『10年後、私たちの町の道路を守っているのは、誰だろうか？』

災害時の結束力と、地域の担い手・安全を守る取り組み。

それが、あらゆる壁を乗り越え、
未来の道路を守る力になると私たちは確信しています。

本日の話が、皆様の地域で新たな一歩を踏み出すきっかけとなれば幸いです。